



第64回国立病院総合医学会
ランチョンセミナー



禁煙外来から COPDの早期発見まで

座長: **高田 昇平 先生**

独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 呼吸器内科医長

演者: **津田 徹 先生**

霧ヶ丘つだ病院 院長・久留米大学医学部臨床教授

日時: **2010年11月27日(土) 12:00-12:50**

会場: **福岡国際会議場 4階**

中会議室409+410(第5会場)

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1 TEL.092-262-4111

ランチョンセミナーは整理券制でございます。
開催当日、ランチョンセミナー整理券配布所にて受付の上、会場にお越しく下さい。

共催: 第64回国立病院総合医学会ファイザー株式会社

第64回国立病院総合医学会 ランチョンセミナー

禁煙外来から COPDの早期発見まで

霧ヶ丘つだ病院 院長・久留米大学医学部臨床教授 **津田 徹**

2006年より喫煙者はニコチン依存症という病名の下、健康保険で禁煙治療が受けられるようになった。バレニクリン発売後、禁煙外来は急増し、2010年全国1万ヶ所以上の診療所や病院で禁煙治療が受けられるようになった。

禁煙外来開設のためには、敷地内禁煙、一酸化炭素測定装置を必要とするなど、一定の条件が必要であるが、禁煙外来の立ち上げに際しては、医師だけでなく、看護師の前向きな姿勢が必要であり、禁煙外来の中心的役割を果たす。

今年の中央社会保険医療協議会(中医協)診療報酬改定結果検証部会での禁煙外来の報告をもとに、如何に禁煙外来を立ち上げるか述べたい。

次に、COPD(慢性閉塞性肺疾患)であるが、これまで肺気腫・慢性気管支炎などと呼ばれ、40歳以上の日本人の8.5%が罹患しており、20~30年前のタバコ消費量の増加、高齢化により、今後さらに増加が見込まれている。しかしながら、日本での診断率は10%と欧米諸国の1/3程度である。

COPDの早期発見のために「肺年齢」は、喫煙者に対する啓発手段、呼吸器の低下を早期に気づかせるツールである。簡易スパイロメータ(健康保険適応外)も導入され、呼吸機能検査が身近なものとなり、COPDの早期発見が進展することが望まれる。

今後、厚生労働省健康局にて、COPD予防・早期発見に関する検討会が立ち上がり、COPDを4疾病(脳卒中・心筋梗塞・がん・糖尿病)に加えることが議論されており、日本もやっと喫煙から国民を守る姿勢に転換しつつある。